

KANSAI*OSAKA

文化力

No.129

2018/SPRING・春

関西から

文化力
POWER OF CULTURE

困難な時代を生き抜く「**萬事入精**」とリベラルアーツ
住友電気工業株式会社 取締役会長
松本正義氏

シンポジウム
文化による地方創生ー関西からの展望

松坂浩史氏・奥野卓司氏・杉本節子氏・角和夫氏・高島幸次氏・佐々木洋三

平成29年度大阪文化祭賞、関西元氣文化圏賞 受賞者発表

アートアセンブリー 小栗まぢ絵と世界に羽ばたく6人のアーティスト

平成30年度助成事業の紹介

日本万国博覧会記念基金

アーツサポート関西

大阪文化芸術フェスティバル2017キックオフ公演

表紙：石橋栄実さん
ソプラノ界をリードする
大阪音楽大学 准教授

困難な時代を生き抜く

昨年4月に創業120周年を迎えた住友電気工業。同社長で関西経済連合会会長でもある松本正義氏に、事業にける思いや企業人としての生き方、関西経済の現状と将来像などについて伺った。

少年時代

兵庫県洲本市で生まれた私は、淡路島の豊かな自然の中で少年時代を過ごしました。スポーツが大好きで、中学校では野球部、高校では柔道部に所属し、運動も勉強も伸び伸びとやらせてもらいました。大学進学にあたっては、一度は東京で暮らしてみたいと思い、緑豊かなキャンパスの雰囲気ひかれて一橋大学に入学。ここでは陸上競技部に所属し、やり投げや混成競技の選手として日本インカレで優勝したこともあります。

絵画への関心

私は長男ですので、大学卒業後は関西に戻って就職しようと思い、大阪に本社を置く住友電気工業に入社しました。ところが入社後は海外勤務ばかり。1973年から5年間はシカゴ、85年から7年間はロンドンに駐在するなど、結局は関西を離れているほうが多かった。

ロンドンに駐在していた1985年、ヨーロッパ視察中の亀井正夫会長(当時)と一緒にパリのオランジュリー美術館を訪れたことがありました。亀井会長は絵画に造詣の深い方でしたが、私は元々が体育会系の人間で、美術を鑑賞するような習慣は

ありませんでした。オランジュリーにはモネの「睡蓮」が収蔵されており、その作品に一部描かれていない箇所があるのはどうしてかと亀井会長に尋ねました。すると亀井さんは、「あれはモネが手を置いたところで、絵の具を塗り忘れたんや」とおっしゃっていました。モネの睡蓮の絵はとても大きいので、カンバスに手について描いていたというのです。会長は絵画に疎い私に冗談をおっしゃったのですが、そんな笑話をしながら鑑賞しているうち、だんだんと絵画の魅力に惹かれていきました。その後、ロンドンの事務所に飾るために絵を購入したのですが、これが高額だったので、後で会社から大層叱られました。

求心力を取り戻す

住友電工の社長になったのは2004年のことです。当時の日本はITバブルの崩壊で景気が著しく後退し、その影響もあって当社は創業以来初めて赤字決算(2003年度)を出しました。

住友電工グループは、私が社長になる以前から大きな組織を維持するため構造改革に取り組み、徹底した分社化を進めました。そして各社に大幅な利益確保を求めたのです。その結果、本体である当社への求心力が低下し、逆に遠心力が働きはじめました。従業員たちは「いつ関連会社に転籍させられるか」といった自身の損得に関わることを気にするようになり、アイデンティティが希薄化して創業精神や企業理念に意識を向けなくなったのです。もともと弊社には風通しの良い共同体的な社風がありましたが、それが薄れて社内には暗いムードが漂いはじめました。

こうした状況に危機感を持った私は、求心力を取り戻すために、400年にわたり培ってきた住友の事業精神をもう一度浸透させることが重要だと考えました。そこで社長に就任するとすぐ、住友家初代の住友政友が遺した『文殊院旨意書(もんじゅいんしいがき)』を今一度心に留めるよう強く呼びか



「萬事入精」とリベラルアーツ

けたのです。

住友政友(1585~1652年)は越前丸岡の武家に生まれ、12歳で上京し涅槃宗の開祖・空源に帰依。その後、還俗して京都で薬商や出版業を手がけた。『文殊院旨意書』は晩年の政友が家人に宛てた商いの心得で、住友の事業精神として代々受け継がれている。一方、銅製錬を始めたのは政友の涅槃宗の門弟で義兄(姉の婿)の蘇我理右衛門。江戸時代に「南蛮吹き」と呼ばれる画期的な精錬法を開発し、これが住友家2代目の友以(とももち)に引き継がれ、400年続く住友グループの発展の基礎となった。

精神的支柱

『文殊院旨意書』は、商人として、また人としての心得を諭したもので、その前文に「萬事入精(ばんじにっせい)」という教えが書かれています。「商事は言うに及ばず候へ共、萬事精に入れられるべく候」、つまり商いは言うに及ばず、何事にも誠心誠意立ち向かい、日夜奮闘するよにということです。気を抜いてだらだらしたり、物事をなめてかかっているは成功しないという戒めです。また、この『文殊院旨意書』を基に、住友の先人たちが何代にもわたって磨き続けてきた『営業の要旨』の中では「不趨浮利(ふすうふり)」と謳われています。「浮利」すなわち道義にもとる不当な利益はもとより、目先の儲け話や安易な利益追求に趨(は)しることなく、信用を重んじて確実に旨とせよという意味です。これは今日の企業のコンプライアンスに通じるもので、私どもが常に心に留めている言葉です。

また、弊社の事業は別子銅山(愛媛県新居浜市：1691~1973年)を源流として、江戸時代から昭和まで、ここで銅鉱石を採掘し、精錬して製品にしてきました。それはとても手間と時間のかかる仕事であり、ここから「遠大なる企画」という事業精神が生まれました。銅山経営は極めて長期的・継続的な視点が必要なため、ある企画を立てても、自分の代だけでは実現できません。そんなときは次の世代へ引き継ぎ、それでも達成できなければ3代へと引き継ぐ。すぐに結果がでなくても、代々プロジェクトを受け継いで開花させるよう努力し続けることを奨励しようとするものです。私は社長時代、創業初の赤字転落によって大規模なリストラを迫られましたが、研究開発費だけは削減しませんでした。自分がトップにいるときに利益を出そうとして研究開発費を削ってしまうと、プロジェクトが停滞して次の世代が滞ってしまうからです。「遠大なる企画」は、住友ならではの事業精神だといえるでしょう。

私は企業のトップに立つ者として、困ったときはこの住友事業精神に立ち返って考えるようにしています。ちなみに第二次世界大戦前夜の1938年、住友系に属する東北金属工業株式会社(現・株式会社トーキン)の開所式で、冶金学者の本多光太郎氏*が「住友家の事業経営に関する伝統的精神は国家的であり奉仕的。これを心に留め工業道徳を重んじ、一

致協力して全力を尽くしてほしい」との主旨の挨拶をされたことを後年知り、とても感激しました。また、昨年(2017年)4月、郷里の洲本市で当地出身の豪商・高田屋嘉兵衛の功績を顕彰する「高田屋顕彰館・歴史文化資料館」の開館式に招かれたときも、館長から頼まれて「萬事入精」と揮毫しました。

*本多光太郎(1870~1954)……東北帝国大学総長、東京理科大学初代学長などを務めた冶金学の世界的権威。世界最強の永久磁石鋼の発明者。

公益との調和

住友の事業精神の中では、「自利利他、公私一如(じりりた、こうしいちによ)」という考え方もあります。政友が仏教の教えから導いた言葉で、「他を利することこそが自らの利となる、常に公益との調和を図るべし」という意味です。常に公共との調和を図る経営姿勢は、私たちの伝統であり、その根底には「社会への報恩」の精神があります。これこそは住友電工グループにおけるCSR(Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任)の基本理念であり、明治期より数々の社会貢献活動を推進してまいりました。

明治23年(1890)、住友は別子銅山200年祭を記念して、同山の産銅で皇居前広場に楠公銅像を献納。同37年(1904年)、創業以来大阪に本拠を置き事業を続けることができた感謝のしるしとして、大阪図書館(現在の大阪府立中之島図書館)と図書購入資金を寄贈した。同38年(1905)には、別子銅山の2年分の純利益に相当する巨費を投じ、愛媛県新居浜市の銅製錬所を瀬戸内海の無人島(四阪島)へ移転。34年の歳月と費用をかけて煙害被害を根絶するとともに、採掘で荒れた銅山の自然を取り戻すべく植林事業を推進した。

近年は、災害復興や学術・文化活動、地域社会などへの寄付や支援に取り組んでおり、2007年には、住友電工創業110周年を機に「住友電工グループ社会貢献基本理念」を制定しました。これに基づき、国内外さまざまな分野の人材育成と学術振興を目的に「公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金」(2009年)を設立しました。現在はこの基金から、エネルギーや情報技術、医療などの最新テクノロジーの研究や人材育成に取り組む大学に対して講座寄付を行ったり、国内外の大学生や外国人留学生に対して奨学金を支

大学講座寄付贈呈式
2017年度は8件の講座に総額
9,300万円の寄付を決定し、28件
の研究に総額3,000万円を助成。



給しています。環境保護や高齢化問題など、現代の重要課題解決に向けた自然科学・社会科学の研究に対する助成にも力を注いでいます。

スポーツ振興に向けて

萬事入精の精神は、スポーツ競技と共通するものがあります。住友電工グループでは、スポーツ支援活動を通じて、スポーツ文化や地域社会の発展にも貢献したいと願っています。2015年4月には弊社陸上競技部に渡辺康幸監督(1996年アトランタオリンピック代表、元早稲田大学競走部駅伝監督)を迎え、2020年の東京オリンピック出場を目指して頑張っています。今年のニューイヤー駅伝(群馬)では、私も沿道まで応援に駆けつけました。地域スポーツの振興にも力を入れ、伊丹市陸上競技協会との共催で「伊丹市中学生陸上教室」を毎年開催するなど、未来の選手の育成にも力を入れています。住友電装株式会社(三重県)では、同県に設立された女子ラグビーチーム「PEARLS」の選手3名を採用するなど、アスリートの就職支援を行っています。

2016年のリオデジャネイロオリンピックで、住友電工陸上競技部の田村朋也選手が男子4×400mリレーに出場。今年元日のニューイヤー駅伝(第62回全日本実業団対抗駅伝競走大会：群馬県前橋市)では、創部以来最高の11位と健闘し、1区では期待の新人・遠藤日向選手(19)がトップでたすきをつなぎ話題となった。

さらには、地域社会との交流を目的に工場を開放した花見イベント「芝桜まつり(北海道住電精密株式会社)」、文豪・谷崎潤一郎が暮らした築100年の京都の商家「石村亭」の維持保存活動(日新電機株式会社)、東日本大震災の復興支援として地元からの従業員採用による雇用促進を目指した「東北住電精密株式会社(福島県)」の設立など、住友の萬事入精の精神に基づき住友電工グループ各社も社会貢献活動に取り組んでいます。

ルック・ウエスト

1970年代前半まで、日本経済の20%は関西が占めていました。しかしそれ以後景気が失速し、今や16%程度まで減退しています。最近ようやく、輸出やインバウンドの増加に伴い、これに関連する産業が好調さを取り戻しつつあります。将来、大阪府・大阪市が誘致しようとしている万博(2025年国際博覧会)や夢洲におけるIR(Integrated Resort：統合型リゾート)が実現すれば、インバウンドの増加による景気高揚は一層期待できるでしょう。リニア中央新幹線や北陸新幹線の延伸・早期開業、高速道路のミッシングリンクの解消など、インフラ整備も関西の発展には不可欠だと思います。とりわけ関西空港への重要なアクセスとなる新線「なにわ筋線(2031年春・完成目標)」を計画通り進めることが重要で、これが実現すると国内外からのアクセスが格段に向上し、関西経済発展の強い支えになるでしょう。また、来年からはラグビーワールドカップ(2019年9～11月)、東京オリンピック・パラリンピック(2020年7～8月)、ワールドマスターズゲームズ関西(2021年5月)という国際スポーツイベントが連続する「ゴールデン・スポーツイヤーズ」がやってきます。これを機

に、インバウンドを増やすと共に、スポーツで心身を健康にし、オリンピック憲章にもうたわれた文化で地域や経済を元気にできればいいと思っています。

関西はアジアに近く、歴史や文化面での結びつきも強い。対アジアの貿易量も東日本より西日本のほうが多いのです。産業面では、再生医療、航空機、AI(人工知能)、ロボットなどの技術が集積し、そうした強みを活かしたモノづくりのイノベーションを起こすことも重要です。

グローバル化の推進も不可欠で、関西経済界は「ルック・ウエスト」の視点が重要だと考えます。つまり、関西から見て東の東京ではなく、西のアジアに目を向けるということです。そうした関西の将来像は、東京の縮小版ではなく「繁栄の多極化」こそふさわしい。大阪の場合だと、産業、文化、観光、人材など長年培ったさまざまなリソース(資源)を活用して、もう一度「大大阪」時代を構築し直すのだという気概が必要です。

今年2月に開催された第56回関西財界セミナー(関西経済連合会、関西経済同友会主催：京都国際会館)のテーマは「いざ、舞台を関西へ～関西からはじまる未来社会のデザイン」。セミナー宣言には、万博誘致や関西の文化資源の活用、ルック・ウエストの視点による経済発展、日本経済を牽引するイノベーション拠点化などが盛り込まれた。関西連合会長でもある松本氏は、こうして関西の潜在力を実力として示していく必要があると発言。

リベラルアーツ

人生は、往々にして予測のつかないことが起きるものです。そこで難しい選択に迫られることが多々ありますが、そのとき誤りなく有効な解決策を見出すためには、豊富な知識が支えとなります。それがリベラルアーツ(liberal arts)です。

リベラルアーツは、単に「教養」と訳されるような皮相的な概念ではなく、自ら深く洞察する能動的な行為としてとらえるべきだと思います。これを身につけるには、人類の知的遺産である古典が示す問題を咀嚼し、自問自答して考えることが必要です。「歴史は繰り返す」といわれますが、先人達も過去に同じような問題で悩み、その答えを文学や芸術などの「古典」の中に遺してくれているのです。私たちはそれに学ぶことで、解決のヒントを見出す助けになるでしょう。不透明で困難な現在の状況にあっては、リベラルアーツで奥深い人間性を養い、困難を恐れない勇気と気迫を奮い立たせることで、突破力が養われるのだと思います。

松本正義氏

1944年、兵庫県洲本市生まれ。1967年一橋大学法学部卒業、住友電気工業入社。2004年社長。豊富な海外勤務経験を活かし、住友電工グループを世界40か国以上で活躍するグローバル企業へと成長させた。17年6月から同社取締役会長。関西経済連合会会長、大阪陸上競技協会会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事。

住友電気工業株式会社

本社：大阪市中央区北浜4-5-33(住友ビル)
1897年創業。自動車関連事業、情報通信関連事業、エレクトロニクス関連事業、環境エネルギー関連事業、産業素材関連事業。
資本金997億3,700万円、売上高9,018億9,200万円(連結：2兆8,144億8,300万円)、従業員数5,034人(連結：24万8,330人)
※数字は2017年3月期。

文化による地方創生 -関西からの展望

～文化庁の関西・京都への全面的な移転を見据えて～

主催：京都府、京都市、京都商工会議所
協力：文化庁地域文化創生本部、関西・大阪 21 世紀協会
(2017 年 11 月 2 日 / 大阪市中央公会堂)

関西には、歴史に裏打ちされた
伝統文化・芸能・祭礼が数多く存在する。
文化庁の関西移転を契機に、
文化で日本を元気にするため、
関西が果たす役割や魅力などを語り合った。



主催者挨拶(ビデオメッセージ)



文化で日本を元気に

京都市長 門川大作氏

関西の皆さんのご理解とご支援により、文化庁の全面的な移転が決定し、その喜びと同時に、関西は大きな責任を担いました。関西の強みである文化により、北海道から沖縄まで日本中を元気にするために共に頑張りたいと思います。関西が元気になり、大阪万博の誘致を成功させ、日本の中で関西が大きな役割を果たし、東京一極集中を是正していくことが極めて重要です。

2017年6月に国会で「文化芸術基本法」が公布・施行されました。この法律は、全会一致で決まったため、マスコミであまり報道されることはありませんでしたが、素晴らしい法律です。

今回、関西・京都に移転する文化庁は、「新・文化庁」です。例えば、今までの文化庁は、食文化を扱いませんでした。この「文化芸術基本法」では、日本人が大事にしてきた生活文化についても振興を図り、その例示の一つとして食文化が明記されました。関西が日本の文化をさらに発展させ、より一層、世界から尊敬されるために、文化と経済、文化と観光を融合する取り組みを共に進めて参ります。



2017年は二条城で大政奉還が行われてから150年が経ちました。また、2018年は明治維新150年という節目の年です。明治維新によって、すべての政府機関は東京に集中し、以来150年たつて、初めての中央省庁の移転です。政府のご英断に敬意を表すと同時に、文化庁の関西・京都への全面的移転を何としても成功させ、さらに中小企業庁の大阪移転もしっかりと展望していかなければなりません。

人口減少社会がいよいよやってきました。日本の都市の半分が消滅し、東京一極集中がますます加速され、このままでは日本の未来はありません。関西が先頭を切って、日本中を生き生きさせる。人口減少に歯止めを掛ける。そんな責務を関西が果たしていきたい。

本日は文化庁地域文化創生本部の松坂浩史事務局長のご講演をはじめ、関西・大阪21世紀協会の佐々木洋三専務理事や素晴らしい方々のシンポジウムが開催されるとあって、本当に心強い限りです。

結びに、ご参加の皆さんに心からお礼を申し上げ、皆さんと共に文化で日本を元気にする取り組みを進めて参ります。どうぞ、よろしくお願ひします。

文化庁の京都移転と 地域文化創生本部の活動

文部科学省 大臣官房付
文化庁地域文化創生本部 事務局長

松坂浩史氏



新たな文化行政を関西から

文化庁の京都移転について、いつから、どこに、何が、という視点でお話ししましょう。移転時期ですが、まず平成29(2017)年4月、文化庁は京都市東山区に「地域文化創生本部」を設置し、遅くとも2021年までに京都へ全面移転。人員規模は文化庁職員全体の7割にあたる250名程度で、長官や次長などの幹部も基本的に京都で仕事をします。

移転場所は、京都府庁敷地内にある京都府警察本部の本館を予定。これは昭和2(1927)年に建てられた歴史的な建物で、文化庁本庁舎にふさわしい重厚な歴史を感じさせる建物です。



文化庁移転予定の京都府警察本部本館

「何が、移転されるのか?、現在の東京の業務を単に京都に持ってくるわけではありません。文化庁の主な業務は、「芸術文化の振興」、「国立文化施設の運営」、「文化財の保存と活用」です。芸術文化の振興とは、日本舞踊、オーケストラなどの西洋音楽の普及、映画製作の支援や海外発信、国民文化祭の実施などです。国立文化施設とは、大阪の「国立国際美術館」や「京都国立近代美術館」、「国立文楽劇場」、沖縄の琉球舞踊の「国立劇場おきなわ」などです。文化財の保存と活用は、建造物や茶器、甲冑などの有形文化財や、歌舞伎や能楽などの無形文化財、青森ねぶた祭のような民俗文化財など、日本各地の文化財を調査、ちなみに国宝の建造物は東京には二つしかありませんが、京都や大阪にはたくさんあり、それらを活用して、関西から日本の文化をアピールすることも可能です。日本文化が重層的に存在する関西ならではの文化行政を展開することは、日本全体にとって大きなメリットがあるのです。文化庁は平成30(2018)年に創設50周年を迎えますが、こうしたことを踏まえ、関西で新しい仕事を展開しようと考えています。

食文化に対する施策も展開

文化庁は平成27(2015)年度より地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語る「ストーリー」を「日本遺産(Japan Heritage)」として認定しています。有形・無形のさまざまな文化財を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外へ戦略的に発信することで地域の活性化を図ります。観光客

に、ただ現地の文化財を見学するだけではなく、そこで物を買ったり食事をするを含めて、総合的に地域の文化を楽しんでいただくとするものです。

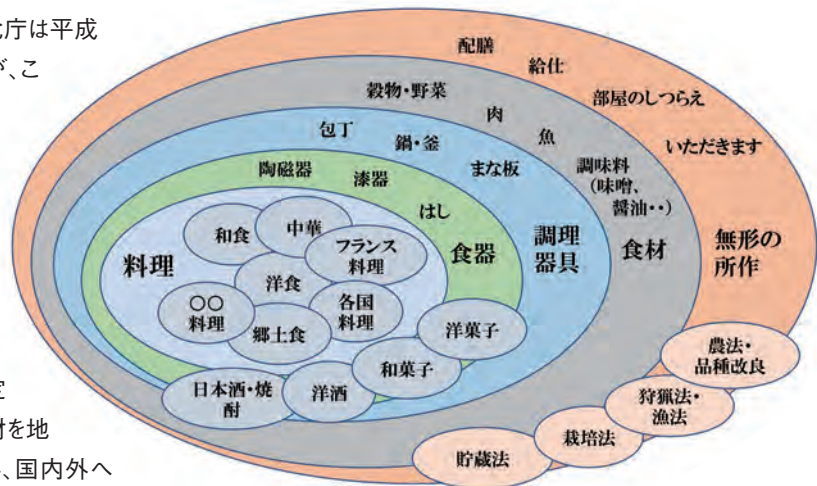
また、平成29(2017)年6月、これまでの文化芸術振興基本法が改正されて、「文化芸術基本法」が公布・施行されました。ここで注目すべきは、同法で例示された生活文化の中に、旧法の茶道や華道、書道に加え、新たに「食文化」が追加されたことです。移転後、文化庁は食文化への取り組みも始めます。

皆さんご存知の通り、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された和食は、季節や風土、生活に即した大切な日本文化です。料理や食材だけでなく、酒や菓子なども含み、味噌や醤油などの発酵調味料、椀や皿などの食器、包丁や鍋などの調理器具、さらには配膳や食事の所作、給仕する側のおもてなしの心に至るまで、数多くの有形・無形の文化で構成されている。こうした分野について、これまで文化庁は十分に対応してきませんでした。移転後は、こうした食文化に対する施策も展開します。それが冒頭申し上げた「東京の文化庁がそのまま関西にやってくるわけではない」ということです。私も関西の食文化を含めさまざまな文化を吸収し、それを全国に展開することで、「文化庁を関西に移転してよかった」と日本中から思ってもらえるよう取り組んで参ります。皆さまの応援をよろしくお願いいたします。



日本遺産の
ロゴマーク

生活文化(食文化)に対する施策の展開



(画像提供:文化庁)



文化による地方創生-関西からの展望

関西の文化について、「強みと課題」、「総合力を発揮する広域連携」、「関西から日本を元気にする具体的提案」という視点から、各界でご活躍のリーダーによる活発な議論が展開された。



コーディネーター
佐々木洋三
公益財団法人
関西・大阪21世紀協会
専務理事



奥野卓司氏
関西学院大学社会学部教授、公益財団法人山階鳥類研究所所長



杉本節子氏
公益財団法人奈良屋記念杉本家保存会常務理事兼事務局長、料理研究家、エッセイスト



角和夫氏
阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役会長グループCEO、阪急電鉄株式会社代表取締役会長、公益社団法人関西経済連合会副会長、一般財団法人関西観光本部副理事長



高島幸次氏
大阪大学招聘教授、大阪天満宮文化研究所研究員

(50音順)

関西の個性と魅力

佐々木 2005年、関西広域連携協議会(関西広域連合の前身)が文化庁関西拠点の設置要望書をまとめ、関西の自治体や経済団体の合意を得て政府に上申しました。当時、私もその仕事に携わっていました。以来12年、経済団体も東京一極集中の是正を強く提言してきましたが、一極集中はますます進み、一方で経済格差の拡大、ポピュリズムの増大など、社会不安は膨れ上がるばかりです。

そうした中で文化庁の京都移転は、文化や経済の東京集中を是正し、地域の文化力や創造性を育てて活力ある社会を実現する千載一遇のチャンスです。とはいえ、今度は文化の「京都一極集中」になっては意味がありません。今こそ関西の多様性を活かし、国際交流や海外発信の新たなモデルを関西の総力をあげて考え、行動するときです。まずは「関西の文化の強みとその課題」について、食や伝統文化など、関西の個性について論じたいと思います。奥野さんからお願いします。

奥野 東京は今、江戸文化ブームに沸いています。とはいえ江戸は武家社会で、当時文化が盛んだったのは上方、浮世絵や歌舞伎は上方で発祥したものです。また、最近「東京・名古屋・大阪」を指して「三都物語」という言い方をしますが、「三都」というなら京都を入れるべきです。関西というエリアでいえば三都は京阪神であり、そこで育まれた町衆の文化に瀬戸内のグローバル性が加わり、江戸へと伝播したのです。

佐々木 「瀬戸内のグローバル性」とはどういうことですか。

奥野 例えば、本シンポジウムのパンフにもある伊藤若冲が描いた鶏の絵を動物学的に分析した結果、羽毛の配色などから海外の鶏との交雑種であることが分かりました。南方産の鶏が琉球を介して薩摩に入り、さらに北前船で瀬戸内を通過して大坂、そして京都へ入ってきたものだと考えられます。大坂には豪商で本草学*にも精通した木村蒹葭堂がいて、そのネットワークを介してさまざまな文物が集められ、ときには商売



伊藤若冲「向日葵雄鶏図」

に結びつけることもありました。つまり瀬戸内は、世界と関西そして日本各地をつなぐグローバルな海路だったのです。

*本草学…江戸時代の植物学で、薬用の観点から植物、動物、鉱物などの自然物を研究する学問。

高島 「三都」とは、もともとは江戸時代の「京都・大坂・江戸」を指す言葉でしたから、「東京・名古屋・大阪」も「京阪神」もそのパロディです。時代によって変わるんですね。それはさておき、奥野さんがおっしゃった木村蒹葭堂のような旦那衆の存在はとても大事で、阪急電鉄を興した小林一三に代表されるように、政治的にも経済的にも文化的にも、関西の旦那衆が果たした功績は大きかった。大阪の割烹も、京料理も、旦那衆によって育まれたという一面があります。

「ハレ」を楽しむ旦那衆

佐々木 関西の料理文化については後ほど議論していただくとして、杉本さんは、京町家「杉本家住宅」の保存活動に取り組んでおられますね。

杉本 私は、築150年の「杉本家住宅」の維持・保存活動をしています。当家は寛保3(1743)年に呉服商を創業し、京都市中に店を構えました。創業当時の建物は蛤御門の変のあった元治元(1864)年に被災して焼け落ち、明治3(1870)年に再建したのが現在の建物で、重要文化財に指定されています。

1841年の天保の改革で、京都の商人はそのお触れに従って質素儉約に努めました。当家には『歳中覚』という備忘録が残されていますが、この年に書き改められ、「朝夕の食事は茶漬けに香の物、昼は一汁一菜」と記されています。ちなみ



杉本家住宅外観

に杉本家では、桃山大根という伝統野菜を漬物にしてお茶漬けと一緒にいただく当時の食習慣が今でも残されています。商家の旦那衆は日々の生活は質素でしたが、祇園祭になると懸装品(山鉦を装飾する絢爛豪華な幕地)などにお金をつぎ込んで、「ハレ」の日を楽しんだことが分かります。

佐々木 高島さんは天神祭を応援されていますが、祭りという観点で関西の文化をどのように見ておられるでしょうか。

高島 天神祭の船渡御は、100艘ほどの船が大川に繰り出します。人数にして約1万人。それを橋の上などから130万人もの観客が見物し、船上と川岸や橋上の群衆が賑やかに「大阪締め」という手締めを交わします。私はそれが当たり前だと思っていて、祇園祭に山鉦の人に向かって声を掛けたら全く無反応です。文化は地域によって異なるもので、普



祇園祭山鉦
(写真提供:杉本節子氏)

遍性を持たないということに気づきました。「関西の文化」とおっしゃいましたが、関西に普遍的な一つの文化はありません。関西を活性化するために、行政や財界が一つにまとまって何かしようということは大賛成なのですが、関西に一つの普遍的な文化があるように錯覚してはいけないと思います。

佐々木 祭りひとつ取っても地域の文化は異なります。奥野さん、いかがですか。

奥野 関西地方では、元々は京都と畿内の摂津などの文化がネットワークされて、地域の文化が育まれてきました。私はそうした多様性やネットワークを大事にすべきだと思います。

佐々木 角さんは、企業として文化によるまちづくりを行ってこられました。

都市格を高める企業戦略

角 阪急電鉄は1910年に開業しました。当時、田畑ばかりだった宝塚線沿線で民間鉄道初の住宅開発を行い、日本初の住宅の割賦(ローン)販売を行いました。昼間の乗客を増やすため「宝塚新温泉」を開業、1914年には「宝塚少女歌劇」の第1回公演を行い、10年後の1924年には、4000人収容の「宝塚大劇場」をオープン、観劇料が高額な歌舞伎に対し、低廉で家族で楽しめる娯楽を提供しました。創業者の小林一三は、「一都市一美術館」を提唱し、池田市に逸翁美術館や演劇・文芸に関する蔵書を集めた池田文庫をつくりました。近年では、西宮球場の跡地に大型商業施設の「阪急西宮ガーデンズ」を開業し、兵庫県立芸術文化センターを誘致したことで、西宮の文化都市としての格が上がり、2017年の「住んでみたい街アンケート・関西版」で、西宮北口が1位にランクされました。

佐々木 兵庫県立芸術文化センターの建設にあたっては、阪急電鉄さんのご協力も大きかったと伺っています。

角 阪神・淡路大震災の10年後にあたる2005年、兵庫県が「復旧」ではなく「復興」という強い気持ちで建設に臨まれました。当社所有の土地ですが、その賃料をかなり格安にさせていただくという形で協力しています。

高島 角さんの会社が文化にすごく力を入れておられるのは、私も実感しています。惜しむらくは、どうして阪急ブレイブを手放されたのかと…(笑)。

角 民間企業は、収支の成り立たない文化活動を継続することはできません。以前は宝塚歌劇、宝塚ファミリーランド、阪急ブレイブがそれぞれ毎年10億円ずつ、合計30億円もの赤字でした。こんな状態では株主のご理解が得られません。宝塚歌劇だけを残しましたが、現在はきちんと利益を出しています。

奥野 昔は、経営者でありオーナーである旦那衆の裁量だけで文化活動の支援ができましたが、現代のように株式会社やホールディングス(持株会社)になってしまうと、トップの思いだけではお金を使えません。企業が文化を支援しにくい時代になったと感じます。

佐々木 旦那衆が少なくなると、町衆が行う文化活動やま

ちおこしの資金集めはとて厳しくなりました。あの天神祭も資金繰りに苦労しています。まちおこしのための浄財を集めることは一番の課題です。杉本さんもそうしたご苦労がおりなのでは？

杉本 2017年の祇園祭は、公益財団法人山鉦連合会が初めてクラウドファンディング*で運営費用の一部を賄いました。京都の伝統文化を後世に伝えるためには、これも一つの方法です。

*クラウドファンディング…インターネットを介して不特定多数の人から資金を集めること。

奥野 「京都」というブランドがあるからこそ、浄財が集まるのでしょ。大阪でもそうしたブランド価値を高めなくてはなりません。京都はブランド価値を高めるために行政も企業もお金を使ってるし、努力もしています。それが産業や経済の活性化につながっていくのです。今の大阪は文化にちゃんとお金を出しているのでしょうか？それが気に掛かります。



阪急西宮ガーデンズ(阪急電鉄提供)

文化発信のキラーコンテンツ「和食」

佐々木 関西各都市が持つ個性ある文化の強み、課題についてお話を伺ってきました。また、さきほど、奥野さんからネットワークのお話もありました。次に関西各地域の文化の総合力発揮と広域ネットワークについて議論を進めたいと思います。角さんは観光集客のポテンシャルが高い関西で、広域周遊のご提案をされていますね。

角 2016年の訪日外国人数は2,400万人を超えましたが、この数字は関西が大きく貢献しています。関西の自治体は以前に比べて、様々な形で連携ができてきたと思います。さらに広域周遊を可能にするには、阪神高速道路神戸線の混雑解消や、淀川左岸線の整備が必要ですが、交通インフラも以前より整ってきています。

佐々木 訪日外国人の楽しみの一つに和食があります。和食は美味しく健康に良いと世界の注目を集め、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された日本の文化です。杉本さんは料理研究者として関西の和食を発信していらっしゃいますね。

杉本 和食の最大の特徴は「出汁」です。出汁を美味しく感じるのは「うま味」という成分があるからで、うま味を意識するのは日本人特有です。糖分や塩分、脂肪分も美味しさの成分ですが、摂りすぎは健康に良くありません。その点、和食は

低カロリーなのに「うま味」によって美味さを感じるから、注目されているのです。出汁は昆布なしに成り立ちません。昆布は江戸時代、北海道から北前船で大坂に持ち込まれ、京都に運ばれました。京料理というのは大阪の港や都市機能、食文化なしにありえなかったのです。

佐々木 昆布を運んだ北前船のお話がありましたが、2017年4月28日に「北前船寄港地」が日本遺産として、まず函館から敦賀まで認定されました。2018年には敦賀から大阪までの認定を目指しています。北前船は昆布の他にもニシンカス運び、河内や倉敷で綿業を発展させました。包丁に使われる出雲玉鋼を流通させたのも北前船です。このネットワークをうまくストーリーにして世界の人々の健康と長寿に貢献する和食文化を発信していくことも大切です。

奥野 瀬戸内は北前船の航路であり、豊かな漁場です。瀬戸内には「アビ漁」といって、アビという鳥が海に潜り、追い込んだイカナゴを追って海底から上がってきたタイヤスズキを竿で釣るという独特の漁法がありました。そうした豊かな恵みが船場の食文化を育てました。また、食材だけではなく、人や文化が大坂や京都などへ運ばれ、瀬戸内文化圏を形成しました。逆に、京都から大坂に人が来る例もありました。18世紀末頃、今の大阪造幣局あたりに「孔雀茶屋」という鳥や動物を見せる茶屋があり、見物客が宇治や伏見から淀川を船で下って大坂にやって来ました。戦後、アマチュア無線家の遊びをデパートが取り入れ、それを旦那衆が支援して日本初の放送局、毎日放送が誕生したのです。関西にはこうした食や遊びを楽しむネットワークが昔からあり、現代にいたって宝塚歌劇や通天閣など、京阪神ネットワークの中で産業化されていきました。

佐々木 遊びの文化を産業化していく力が京阪神の強みだったのですね。

「観風」対策と「コト消費」

高島 「観光」に加えて「観風」も重視すべきだと考えています。観光とは、風景や建物などを観ることで、観風というのは、その地域で暮らす人々の生活・風土を知り、感じることです。しかし現在、観光パンフレットはたくさんあっても、日本の生活文化を知ってもらうための「観風パンフレット」はありません。以前、外国人留学生と一緒にうどんを食べたとき、私が音をたててすすのを見た留学生から「とても下品だ」と言われたことがありました。こうした誤解を受けるのは、観風を知ってもらう努力をしてないからです。日本人も日本の文化や習慣を知らない外国人を嫌うことになります。文化の産業化にあたっては、この観風の視点を持たなければなりません。

角 おっしゃるとおり、インバウンドはリピーターも増えています。国内・国外問わず、お客様は買い物や食事といった「モノ消費」から、日本の文化を楽しむ「コト消費」へと変化しています。こうした風を先取りし、2008年に開業した西宮ガーデンズでは、まずお越しいただき、散策して頂けるようにと、ペト

専用のエレベーターやベットの幼稚園を設け、そこでしつけを学んだら卒園証を渡したり、ベットの帽子を被せ、卒業写真を撮ったりする等の仕掛けをし、好評を得ています。さらに、今後インバウンド向けに「コト消費」として力を注ぎたいのが「ナイトカルチャー」です。

高島 あるカナダ人が大阪の民宿に泊まって、出がけに「いきます」と挨拶したら「はよ、お帰り」といわれて戸惑ったといいます。「どうして早く帰らなければならないのか」と返したら、「無事にお帰りください」という意味だと教えられ、これが一番の土産話になったと。大事なものは「はよ、お帰り」というのが大阪の文化ということです。関西の人にはそういう温かな気遣いがあるという観風を知って感動したという例です。「いただきます」「ごちそうさま」というのは日本人特有の食事作法ですが、それに対して「よろしゅう、お上がり」「お粗末さまでした」と応える文化があることを説明するのが大事なのです。

奥野 高島先生のおっしゃるとおりですが、ちょっと心配なのは外国人に対する説明だけでなく、われわれの内なるところからかなり蝕まれているのではないかとということです。大阪でも京都でも、昔からごく当たり前に行ってきたことが、今も行われているとは限りません。私たちが培ってきた生活文化が失われつつあることが問題です。

佐々木 確かに、ユネスコ世界無形文化遺産に和食が登録されたのは家庭料理が評価されたからですが、主婦も勤める時代に、出汁を引く時間がなかったり、お箸を使えない子供達が増えたりなど、和食の作法も崩れつつあります。文化芸術基本法では食文化も対象となりましたが、杉本さんはその辺をどうぞ覧になられますか？

杉本 現在、「日本遺産」に認定されているものは全部で54件ありますが、そのうち「食」がテーマのものは三つだけです。福井県若狭と京都をつなぐ「鯖(さば)街道」、京都府の「日本茶800年の歴史散歩」、そして、和歌山県湯浅町の「醤油醸造の発祥の地」です。とくに「御食国(みけつくに)」と呼ばれた関西の食文化は私たちの誇りであり、そうしたことをストーリーにして海外から来る方々にも肌身で感じられるよう広く発信していきたいですね。

佐々木 御食国というのは、古代、天皇に魚介類を献上することを許された国のことで、越前(若狭)、鳥羽(伊勢)、淡路(大阪湾)を指し、また、若狭の小浜は日本の鮭の発祥地といわれています。こうした和食文化をきちんと伝える食育も大切です。一方、カリフォルニアロール鮭やラーメンは和食なのでしょうか。例えば、「鯖ラーメン」のように伝統ある関西の和食文化の上に新たな価値を創造し、杉本さんのおっしゃるように過去から未来に物語をつないでいくことも必要です。

2020年に向けた課題 ～アームズ・レングス～

佐々木 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、今、国をあげて文化プログラムが推進されています。これ

について角さんにお伺いします。

角 オリンピック憲章にはスポーツと併せて文化プログラムの実施が明記されています。2012年のロンドン大会では、過去には見られないほど大規模かつ多彩な文化プログラムが実施され、成功を収めました。2020年以降も日本各地で文化プログラムが実施されることを期待しています。とはいえ日本の文化予算は1,040億円(2016年度)しかなく、フランス(4,238億円)、韓国(2,525億円)、アメリカ(1,659億円)など諸外国に比べてあまりに少ない。国家予算に占める割合も韓国(1.09%)やフランス(0.89%)などに比べて日本は0.1%という低さです。

また、文化庁の補助金(文化芸術振興関連補助金)を都道府県別に見ると大きなばらつきがあり、新潟県や京都府は突出していますが、大阪は極めて低い。今後は文化予算を増やすことと併せ、官民が協働して文化事業を進める努力が必要です。兵庫県立芸術文化センターの開館で西宮市の文化都市としての格が上がったように、そうした努力によって、地域の文化的ポテンシャルが上がり、人が集まり、活性化の機運も高まります。

佐々木 文化庁の補助金が都道府県によってばらつきがあるのは、自治体によって申請額が異なるためです。補助金は事業費の2分の1なので、半分は自治体が負担しなくてはならず、また、自治体によっては文化を地域の活性化のツールとして戦略的に捉えていないこともあります。

奥野 政府は日本文化の魅力を発信する「クールジャパン戦略」に取り組んでいますが、これはイギリスの国家戦略「クールブリタニカ」に倣ったものです。クールブリタニカの良いところは、行政は企業やNPOなどに経済的支援はするが、活動内容には口を出さないという点です。経済学者ケインズが提唱した「アームズ・レングス」はこの口出ししないという意味です。ヒトラーが文化の祭典であるベルリンオリンピックを政治に利用したことへの反省でした。こうしてイギリスは、歴史と文化の特徴を活かしつつ新しい文化を生み出し、活性化につなげています。

また、スコットランドのエディンバラフェスティバルでは、歴史あるエディンバラ城を活かしながら、新たな芸術・文化を生み出す祭典を行い、世界中から集客しています。こうした施策は、長い歴史と多彩な文化を持つ関西にこそふさわしいと思います。大阪にも大阪城があるのですから、これを活用したフェスティバルができるのではないのでしょうか。

関西から日本を元気にするために

佐々木 それでは、文化庁の関西移転を機に、関西から日本を元気にする具体的な提案をお伺いします。

高島 先ほどの話の繰り返しになりますが、観光より観風のほうがより文化への接触度が大きいと思いますので、これからは観風を説明する努力を課題にしたらいと思います。役所の「観光局」や「観光部」を、すべて「観光・観風局」に改

文化による地方創生-関西からの展望

名して、文化を理解してもらうことに重点を置く。経済効果だけを考えたインバウンドに期待するのは、よくないと思います。観光の「光」と観風の「風」の両方が満たされて、「風光明媚」になります。関西は、風光明媚でありたいですね。

杉本 関西からキラーコンテンツである和食文化を発信していくためには、「国際関西和食フォーラム」(仮称)というような産官学や京阪神で和食をきちんと論じ合うプラットフォームづくりが必要だと思います。京都府立大学では「京都和食文化研究センター」が開設され、和食文化学科開設の準備が進められているように、和食の効能をアカデミックに検証し、その価値をさらに高めることも大事でしょう。そうした成果に基づき、関西の和食をそれぞれの地域が物語にしていって取り組みに力を注ぎたいと思います。

角 2020年の東京オリンピック・パラリンピックを挟んで、2019年にラグビーワールドカップ、2021年にワールドマスターズゲームズ関西が開催されます。この「ゴールデン・スポーツイヤーズ」に加え、2021年には大阪で食博があり、さらに大阪万博が誘致されれば2025年は食博と万博のダブル開催の年となり、関西の食や文化を世界に発信する絶好の機会になります。

一方、文化を守り、振興するためにネックになるのはお金です。私は囲碁好きなのですが、スポンサーの減少で日本での国際棋戦は皆無です。そこで企業に協力を取り付け、2017年3月に優勝賞金3,000万円で日中韓とAIの4者による国際棋戦を実現させました。関西フィルハーモニー管弦楽団も民間の支援で活動を維持しています。インバウンド関連では、大阪府が宿泊税を導入、京都市でも民泊に宿泊税を導入する方向です。違法民泊取り締まりの効果もあり、私はこの政策に賛成で、さらに関西広域連合の各自治体が宿泊税を導入し、例えば税収の一部を関西全体の文化、観光施策の財源に充ててはどうかと提案しています。

*ワールドマスターズゲームズ関西…概ね30歳以上のスポーツ愛好者であれば、誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会。

奥野 関西は、今日のグローバル経済と違って近江商人の「三方よし」の考え方のように「まず、やりましょう」と、民が中心となって、近江や京都、大阪などそれぞれの地域で、それぞれの方法で始めたのです。だから、多彩な文化が関西各地で花開きました。文化庁が移転しても、われわれ民間がちゃんとやっていくという意味を持たなければいけない。行政は支援するだけにとどめて、産業界、クリエイター、学問的な専門家、NPOやNGOの人々、そして市民一人ひとりが頑張らなければなりません。

また、関西には京都、大阪、神戸、奈良、滋賀など各地域で独特の歴史・文化に根ざした「物語」があります。その物語を展開していくと、もの凄くオモロイことになります。その周辺で食をはじめ、水路を使ったさまざまなイベントもできる。大阪城や京都御所などの歴史の舞台に、上方文化をベースに近未来指向の物語を上演するイベントがあっても面白い。そ



れを関西の観光、情報、文化、飲食産業などから日本のモノづくり産業にまでに波及させる、「物語づくり」を「モノづくり」に結び付けていくことで活性化につながると思います。私たち町衆がそれを活性化させていかないとアカンと思います。すぐにリターンを求めないで、結果的に関西のさまざまな分野で産業を活性化させるという長期的な見通しで、それこそ昔の旦那衆のようにやっていくべきです。

佐々木 先ほどは奥野さんから、エディンバラフェスティバルのように大阪城を活用すればどうかというご提案がありました。関西・大阪21世紀協会は、大阪城や堀、市内の河川という既存の歴史的なインフラを活かした舞台をつくり、オペラや吹奏楽などさまざまな舞台芸術の可能性を探る社会実験を行ってきました。締め括りにその動画をご覧いただきたいと思います。大阪城をバックにタクトを振った関西フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者の藤岡幸夫氏は「世界各地の舞台でタクトを振ったが、ライトアップされた大阪城をバックにこんな素晴らしいステージはない。なぜ、大阪はこれを売り出さないのか?」と語っていました。

最後になりますが、文化庁の関西移転で求められるのは、地域の多様な歴史・文化を発信し、国際文化交流を推進する機能を関西が果たすことではないでしょうか。関西には国宝の約6割、日本の世界文化遺産の半数とその維持に従事する多くの人材が集中しています。今こそ、文化庁が何かをしてくれるのを期待するのではなく、私たち自身が自ら行動するときにあると思います。本日はありがとうございました。



大阪城西の丸ステージウィーク (2012年7月・西の丸庭園特設ステージ)

大阪文化祭賞 受賞者決定

笑福亭松喬さんら8公演に賞を贈呈

大阪府内で1年間に開催された全公演の中から、とくに優れた成果をあげた人や団体を顕彰する大阪文化祭賞(主催:大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会)。昭和38(1963)年の創設以来54回目を迎えた今年度は、第1部門(伝統芸能・邦舞・邦楽)、第2部門(現代演劇、大衆芸能)、第3部門(洋舞、洋楽)の各部門ごとに、大阪文化祭賞と同奨励賞が贈られた。

第1部門の大阪文化祭賞は、関西を本拠に活動する山本哲也さん(大鼓方大倉流)と成田達志さん(小鼓方幸流)が2003年に結成したTTR能プロジェクト、第2部門は2017年10月に七代目松喬を襲名した落語家の笑福亭松喬さん、第3部門は首席指揮者の井上道義さんが指揮する大阪フィルハーモニー交響楽団に贈られた。関西の著名な芸術家や文化人、ジャーナリストが公演を観て審査にあたり、最終審査に残った68公演の中から企画・内容・技術などが総合的に優れた8公演が選ばれた。

今年3月12日には、リーガロイヤルNCB(大阪市北区)において各賞の贈呈式が行われた。TTR能プロジェクトの山本さんは、「我々の世代と共に育っていただけるお客様を作りたくて、15年前にこのプロジェクトを立ち上げた。試行錯誤の連続だったが、立派な賞をいただいて努力が報われた思い。今後は受賞に恥じない舞台を作っていきたい」と挨拶。笑福亭松喬さんは「中学1年のときにラジオで『初天神』を聴いて落語家になりたいと思った。(七代目を襲名して)落語家としての新しい人生は、多くの人に落語の楽しさを知ってもらえるよう頑張っていきたい」と喜んだ。さらに受賞記念トークで松喬さんは、大学で落語研究会を創部した先輩の話を紹介。「メンバーが足りなかったんで、コーラス部を作ろうとしていた友人に頼み

込んで幽霊部員になってもらったところ、そのコーラス部が潰れて、友人が落研に残った。それが現在の桂文珍さんで、中学や高校で口演をするときは、「誘われたらやってみよう、と言っている」と笑いを誘った。

関西・大阪21世紀協会は、大阪文化祭賞を芸術・文化分野における人材の発掘や育成、交流事業の一環として重視し、受賞者の記念公演を主催するなどアピールに努めている。また、受賞者の一層の励みとなるよう、副賞賞金(大阪文化祭賞20万円、同奨励賞5万円)や記念盾を当協会より提供している。審査経緯を報告した堀井良股理事長は、「受賞された皆様は、時代を真正面から受け止め、それに向き合いながら芸術の力で高い表現をされた点が審査委員の方々の注目を集めたと思う。大阪文化祭賞は半世紀以上の歴史があり、錚々たる歴代受賞者から、大阪には優れた文化人・芸能人を生み出す土壌があると強く感じる。今回受賞された皆様は、また一つ新しい歴史を刻まれた」と受賞者を讃えた。



受賞記念トークで会場を和ませる笑福亭松喬さん



山本哲也さん(左)と成田達志さん(右)



笑福亭松喬さん



福山修さん(井上道義さん代理:大阪フィルハーモニー交響楽団事務局次長)

平成29(2017)年度各部門の受賞者

()内は受賞成果

第1部門(伝統芸能・邦舞・邦楽)

- ▶大阪文化祭賞
TTR能プロジェクト
(TTR能プロジェクト15周年特別公演「定家」)
- ▶大阪文化祭 奨励賞
豊竹芳穂太夫
(文楽若手会公演『菅原伝授手習鑑』の「寺子屋の段」など)

第2部門(現代演劇、大衆芸能)

- ▶大阪文化祭賞
七代目笑福亭松喬
(三喬改メ 七代目笑福亭松喬襲名披露公演)
- ▶大阪文化祭 奨励賞
iaku
(「肅々と運針」「ハイツブリが飛ぶのを」)
玉造小劇店
(本格的な小型時代劇・わ芝居〜その巻『カラサワギ』)

第3部門(洋舞、洋楽)

- ▶大阪文化祭賞
井上道義指揮 大阪フィルハーモニー交響楽団
(大阪フィルハーモニー交響楽団 第505回定期演奏会における演奏及びバーンスタイン『ミサ』)
- ▶大阪文化祭 奨励賞
周防亮介
(東京オペラシティ リサイタルシリーズB→C(ビートゥーシーノ/パッサロからコテンポラリーへ) 周防亮介ヴァイオリンリサイタル)
野間 景
(野間バレエ団第25回定期公演『ドン・キホーテ』改訂振付)
(敬称略)



受賞者(前列)と主催者および各部門の審査委員長(後列)

名演奏家にして名伯楽 小栗まち絵と 世界に羽ばたく6人のアーティスト

— 2018年2月23日・クラブ関西 —



出演者全員でヴィヴァルディ「四季」より「春」を演奏



小栗まち絵さん

若手演奏家の超絶技巧を間近で堪能

大阪・関西を拠点に活動する優れたアーティストを紹介し、アーティスト支援の輪を広げることを目的としたアート・アSEMBリー（関西・大阪21世紀協会主催）。第9回を迎えた今年には、いずみシンフォニエッタ大阪第37回定期演奏会におけるソロ演奏で平成28年度の大阪文化祭賞・最優秀賞を受賞したヴァイオリニストの小栗まち絵さんと、国内外で活躍する新進気鋭の若手アーティスト6名による弦楽アンサンブルが披露された。

小栗さんは、古典から現代作品まで幅広く取り組み、ソロ、室内楽、オーケストラリーダーとして活躍。また日本屈指の指導者として夫の故・工藤千博さんとともに大阪から国内外で活躍する優れたヴァイオリニストを多く育ててきた。

この日は小栗さんの受賞をお祝いして、教え子であるヴァイオリンの周防亮介さん（メニューイン国際音楽アカデミー在学）、松岡井菜さん（ウィーン国立音楽大学在学）、芝内もゆるさん（相愛大学音楽学部2回生）、前田妃奈さん（豊中市立第一中学校3年生）、チェロの芝内あかねさん（相愛大学音楽学部4回生）、ピアノの田口友子さん（相愛大学非常勤講師）が、ヴィヴァルディ「四季」やブラームス「ハンガリー舞曲」など独奏も含めて8曲を披露。小栗さんは今回のアート・アSEMBリーのためにオリジナルの編成を用意し、バルトークの「二重奏曲」は五重奏曲として、サラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」は、ソロパートもオーケストラパートも出演者全員が交代で競演・共演した。参加者は西欧のサロンを思わせる会場で、若手演奏家の超絶技巧を間近で聴き入った。



小栗まち絵さんと佐々木洋三専務理事の対談

幕間には小栗さんと当協会の佐々木洋三専務理事との対談が行われた。小栗さんは教え子たちとの共演について「受賞の理由の一つに大阪で相愛大学を軸に音楽教育に長年携わってきたことがあげられた。私自身、優秀で才能のある生徒たちと一緒に音楽の道を歩むことは大いなる喜び」と笑顔で語った。また、佐々木専務から演奏家を目指す若者の指導について聞かれ、「本人が好きで、やりたいという強い意欲と努力があれば、（演奏技術の）飲み込みも早い。いずれは私を追い越してくれるだろうと期待する」と答えるなど、小栗さんの温かい人柄にも触れることができた。終演後は懇親会を開催、出演者と参加者の交流がさらに深まる素晴らしい一夜となった。

.....
小栗まち絵さん：1971年桐朋学園大学を卒業。日本音楽コンクール第1位（1968年）、ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール特別賞（1972年）、エヴィアン（現・ポルドー）国際室内楽コンクール第1位大賞（1976年）、エクソンモービル音楽賞（2004年度）、大阪芸術賞特別賞（2007年度）、大阪市民表彰（文化功労部門）（2009年度）など国内外の栄えある賞を数多く受賞。現在、いずみシンフォニエッタ大阪ソロコンサートマスター、相愛大学名誉教授、東京音楽大学特任教授。



周防亮介さん



松岡井菜さん



田口友子さん



芝内あかねさん



芝内もゆるさん



前田妃奈さん

ASKは満4歳 寄付累計は1億円を突破

2014年4月に誕生したアーツサポート関西(ASK)は、今年の4月で満4歳となります。市民や企業の寄付だけで関西の芸術・文化活動を支援してまいりましたが、4年間で寄付の累計が1億円に達しました。助成先は、伝統芸能、美術・デザイン、音楽、舞台芸術など様々な分野の70を超える個人・団体となり、皆さまからお寄せいただいた支援によって、たくさんの芸術家たちが活動を充実させることができました。

4年間のASKの取り組みと成果

寄付者の想いを乗せた「顔が見える」支援



ASKの活動の大きな特徴が、寄付者の意向を反映させた支援です。寄付をもとに個別のファンドを設け、そのファンドごとに寄付者のご希望に沿った公募を実施し、支援を行います。30歳未満の方を対象に500円で文楽が鑑賞できる文楽技芸員たちの取り組み「ワンコイン文楽」は、過去4年間にわたりASKのファンドが支えてきたもので、のべ2,000人の若者が国立文楽劇場で文楽を観劇しました。

京阪神ビルディング文楽支援寄金 岩谷産業文楽支援寄金
技芸員たちの取り組み「ワンコイン文楽」を各企業が引き続き形で支援を継続。

次世代を担う若い芸術家たちを支援



ASKは未来の文化を担う若者たちを積極的に支援しています。こうした考え方にご賛同いただき設置された「岩井コスモ証券ASK支援寄金」は、国際的な水準にある40歳未満の若手芸術家を支援。その中の一人、ヴァイオリニストの周防亮介さんは、その卓越した音楽性が認められてスイスのメニューイン国際音楽アカデミーから声がかかり、昨年10月から同アカデミーに留学。今後ますますの飛躍が期待されます。

周防亮介さん
留学先では、同世代の世界トップクラスの演奏家たちと共に演奏を磨いています。

支援者と芸術家たちをつなぐ、さまざまな取り組み



ASKへの寄付は新しい芸術体験のはじまりです。ASKは、寄付をした方々を支援先の現場にお招きして芸術家の方々と交流していただくパトロン・プログラムを、年20回ほど開催しています。また、支援を受けた芸術家の方々のパフォーマンスをご覧いただく成果報告会には毎回多くの方々にお越しいただき、好評を博しています。

ASKサポーター感謝のついで
2016年春に大阪能楽会館(昨年末に閉館)でASKが支援したアーティストのパフォーマンスを披露。

ASKのこれから

おかげさまでこの4年間、ASKは多くの方々に支えられ、多くの芸術家たちを支援することができました。一人でも多くのアーティストを支援するために、そしてこの取り組みを未来につないでいくために、引き続きみなさまからのご協力をお願いいたします。

サポーターズクラブ 法人会員制度 新設

2018年4月から、アーツサポート関西サポーターズクラブに新たに法人会員制度が加わります。これまでお一人1万円の個人会員のみでしたが、一口5万円の法人会員が新設されました。お申込方法や詳しい内容につきましては、ASK事務局までお問い合わせください。

Tel: 06-7507-2004 Email: ask@osaka21.or.jp

- 1口50,000円(年額)。何口でもお申しいただけます。
- ASKが支援するアーティストたちが会員企業を訪問して、パフォーマンスを披露します。

平成30(2018)年度 総額1,005万円を29事業に助成決定

平成30年度の公募助成の審査が行われ、総額1,005万円を、美術・デザイン、音楽、舞台芸術、伝統芸能の4分野29事業に交付することが決まりました。申込総数は133件、助成倍率は約4.6倍でした。選ばれた活動は、いずれも高い芸術性や将来性を有するものです。また、昨年からはじまった岩井コスモ証券ASK支援寄金助成では、平成29年度に支援した5名について継続的に支援していくことになりました。

採択された事業(例)

美術(個人) 事業者：大坪晶

活動概要：「Shadow in the House 制作プロジェクト」の調査など

1979年生れ。GHQに接收された邸宅の内部を撮影し、そこに写りこむ過去の痕跡と演出的な手法によって仮想の人体を重ねる写真シリーズ「Shadow in the House」を手掛けています。GHQが喚起する歴史の重み、戦前の西洋風住宅が受けた戦前戦後での人々の視線の変遷など、幾重にも堆積した日本の日常のある種の特異性が浮かび上がってきます。なお、このシリーズの制作の一環として、アメリカ公文書館に出向き、接收住宅の調査も予定しています。
助成額：50万円



大坪晶さん



《Shadow in the House - Honda Tadatsugu House》Type C Print, 2017

音楽(個人) 事業者：山口莉奈

活動概要：クラシックギターのコンサート開催およびコンクールへの参加など

1995年生れ。2017年第42回ギター音楽大賞にて第1位・大阪府知事賞を受賞するなど、若くして数々のコンクールで上位入賞を果たした山口莉奈さん。将来、国際的な舞台で活動するクラシックギタリストを目指し、来年1月にスペインのクラシックギターの名門アリカンテ大学への留学を予定しています。また、今年はその準備を兼ねて多くのコンサートやコンクールへの参加を予定しています。
助成額：40万円



山口莉奈さん



第42回ギター音楽大賞授賞式
第1位および大阪府知事賞受賞

音楽(団体) 事業者：一般社団法人タチヨナ

活動概要：庄内つくるオンガク祭2018

生活保護世帯率が高く複雑な社会課題を抱える豊中市南部の子供を対象に、先進的なアーティストと一緒に身の回りの素材で音楽を創造するなどのワークショップや、アーティストも加わったコンサートで演奏を実施し、音楽を通して子供たちに「生きる力」を身につけてもらうことを目的とした取り組みです。大学生や地域の協力団体のスタッフにもかかわってもらいながら、プロジェクトを進めます。
助成額：50万円



一般社団法人タチヨナ《庄内つくるオンガク祭2017》

舞台芸術(団体) 事業者：一般社団法人HMP

活動概要：エイチエムピー・シアターカンパニー<狂騒の身体論I>『高野聖』(仮)

泉鏡花の代表作『高野聖』をもとに、現代演劇を創作初演。科白はほとんど用いず、俳優の身振りや身体の静止を用いながら作品を制作。狭い舞台空間を用意し、プロジェクターを用いて舞台上に文字を表示。文字は主に擬態語を用いて文学作品が持つ雰囲気や強調するなど、観客の想像力を引き出すような実験的な舞台を目指します。字幕は、日本語のほか、英語と韓国語を予定しています。
助成額：50万円



一般社団法人HMP《四谷怪談 雪ノ向コウニ見夕夢》2017
撮影：脇田友

伝統芸能(団体) 事業者：女流義太夫 瑠璃の会
活動概要：第三回女流義太夫演奏会 瑠璃の会

明治中期から昭和にかけて「娘義太夫」として大流行した女流義太夫は、その本拠地の大阪で芸芸員の減少などから平成21年の公演を最後に長らく途絶えていました。平成29年に瑠璃の会が立ち上がり、大阪の地で8年ぶりに女流義太夫の公演が行われました。瑠璃の会では今後、大阪の地での活動の拠点づくりや後継者の育成も見据え、定期的に公演を行っていく予定です。

助成額：50万円



女流義太夫 瑠璃の会 《第二回瑠璃の会演奏会》
撮影：佐藤美幸

(写真は各事業者より提供)

平成30(2018)年度アーツサポート関西 助成先
岩井コスモ証券ASK支援寄金助成(交付額順)：総額400万円

| 分野 | 申請者 | 活動名 | 交付額(万円) |
|---------|---------|--|---------|
| 美術 デザイン | 大坪 晶 | GHQによる接収住宅の内部を撮影し、歴史の重みや日本の西洋住宅へ向けられてきた視線の変遷などを浮かび上がらせる。 | 50 |
| 音楽 | 松原 智美 | クラシックアコーディオンの演奏活動や普及活動、作曲家への新作の委嘱など。 | 45 |
| 美術 デザイン | 野原 万里絵 | 複数の他者による共同作業によって、一人の画家の表現を超えた重層的な広がりや特殊な時間感覚を表現。 | 40 |
| 伝統芸能 | 榎茂都 梅弥月 | 上方舞「榎茂都流」に伝わる創流当時の譜本の研究活動。およびそれにより掘り起こした作品の再演など。 | 40 |
| 美術 デザイン | 金 サジ | 在日韓国人として生まれ、社会的マイノリティの日常を創作的神話の世界として表現した写真シリーズを制作。 | 40 |
| 美術 デザイン | 梅田 哲也 | 廃材の動くオブジェや実験的サウンドアートを手掛け海外へも多く招聘される注目のアーティスト。 | 40 |
| 音楽 | 山口 莉奈 | 注目の若手クラシックギタリスト。来年スペインの大学への留学を見越し、数多くの演奏会を開催予定。 | 40 |
| 美術 デザイン | 宮坂 直樹 | ブリュッセルやパリで学び、東京芸大にて博士号取得の気鋭の美術家。現代美術の自主企画展を開催する。 | 30 |
| 美術 デザイン | 加藤 至 | アーティストユニット「ヒスロム」の一人。子供の遊びのような感覚で社会の深層にある規範や暗黙の了解をあぶりだす。 | 30 |
| 美術 デザイン | 前谷 康太郎 | 炎の揺らぎなどの自然の現象を撮影し、光学的アナログ変換を介して原初的な様相に還元した映像作品を制作。 | 25 |
| 音楽 | 周防 亮介 | 関西出身の新進気鋭の若手ヴァイオリニスト。国際コンクールやマスタークラスへの参加を予定。 | 20 |

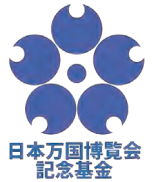
一般助成(交付額順)：総額500万円

| 分野 | 申請者 | 活動名<活動期間> | 助成額(万円) |
|---------|---------------------------|--|---------|
| 美術 デザイン | 一般社団法人brk collective[ブレコ] | NISHINARI YOSHIO <4/1 ~ 2019/3/31> | 70 |
| 音楽 | next mushroom promotion | エレクトロ・ヒーロー来臨(仮題)<11/9> | 50 |
| 音楽 | 一般社団法人タチヨナ | 庄内つくるオンガク祭2018 <6/1 ~ 8/26> | 50 |
| 舞台芸術 | 一般社団法人HMP | エイチエムピー・シアター<狂想的身体論 I『高野聖』(仮)><10/12 ~ 21> | 50 |
| 舞台芸術 | 関 典子 | モーション・クオリア研究~自由落下による必然的な動きと表現~<11/25、2/3> | 50 |
| 伝統芸能 | 女流義太夫 瑠璃の会 | 第三回 女流義太夫演奏会 瑠璃の会 <2019/3/2> | 50 |
| 美術 デザイン | 冬木 遼太郎 | ファミリー・リバーズ・シアター <4月~9月> | 40 |
| 美術 デザイン | 特定非営利活動法人 ANEWAL Gallery | ANEWAL Gallery Residency Program <4/1 ~ 2019/3/31> | 20 |
| 音楽 | 一般社団法人日本テレマン協会 | 高田泰治 チェンパロ・リサイタル(4公演)<7月~2019/3月> | 20 |
| 音楽 | 神戸大アートマネジメント研究会 | 子どものためのコンサート第11弾(仮)<11/10> | 20 |
| 舞台芸術 | 應典院寺町倶楽部 | 縁劇フェス <6/21 ~ 24> | 20 |
| 舞台芸術 | VOGA | 第15回公演『直観と情熱、あるいは死と詩(仮)』<11/3 ~ 11/7> | 20 |
| 舞台芸術 | kondaba | kondabaの旗揚げ公演『彼らの生活(仮)』<11/9 ~ 11/11> | 20 |
| 伝統芸能 | 坂東 竹之助「第一回竹之助の会」 | 第一回竹之助の会 <8/4> | 20 |

個別寄金助成(交付額順)：総額105万円

| 寄金名 | 申請者 | 活動名<活動期間> | 助成額(万円) |
|-----------------|------------|---|---------|
| 八千代電設工業伝統芸能支援寄金 | 志芸の会 | 夏休みキッズ狂言教室・夏休みキッズ狂言会・志芸の会の『小学生への出前狂言』<6/1 ~ 12/25> | 50 |
| 北倶楽部記念寄金 | ハーベストコンサーツ | 朝の光のクラシック 第72回『登坂理利子ヴァイオリンコンサート』第73回『牧野葵美 ヴァイオリンコンサート』<7/16、9/30> | 45 |
| ささやか寄金 | アトリエインカーブ | アートフェア東京出展事業 <2019/3月> | 5 |
| ソフィア寄金 | 森村 誠 | OTW シリーズの大型作品の制作 <4/1 ~ 2019/3/31> | 5 |

(敬称略)



平成30年度日本万国博覧会記念基金事業

47事業に総額8,900万円を決定 — 助成対象を絞り込み重点化 —

日本万国博覧会記念基金(略称:万博記念基金)事業では、新たな助成制度で平成30年度助成事業を公募し、重点助成事業1事業、一般助成事業46事業の合計47事業・総額8,900万円の助成を決定しました。

下記の変更を行い、昨年7~9月に公募したところ、国内外から211事業(重点助成事業39事業、一般助成事業172事業)の申請がありました(前年度は212事業:下表参照)。これら申請事業は、外部委員からなる万博記念基金事業審査会での審査を経て決定しました(P19に平成30年度の助成事業を掲載)。

助成事業の主な変更点

1 助成対象分野の絞り込み

近年の低金利により助成原資が減少する中、限られた資金で効果的に助成するため、万博記念基金設立当初の助成方針の原点に戻り、万博理念を定めた「日本万国博開催の意図」の趣旨に適った活動を対象とすることを明記するとともに、「国際交流活動」への助成に特化し、助成対象分野を5分野から2分野へ絞り込みました。

これまでの助成対象分野(5分野)

- 国際相互理解の促進に資する活動
 - ・ 国際文化交流、国際親善に寄与する活動
 - ・ 学術、教育に関する国際的な活動
 - ・ 自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動
- 文化的な活動
 - ・ 日本の伝統文化の伝承及び振興活動
 - ・ 芸術及び地域文化に関する活動

今回からの助成対象分野(2分野に絞り込み)

「日本万国博開催の意図」の趣旨に適った以下の活動

- 国際相互理解の促進に資する活動
 - ・ 国際文化交流、国際親善に寄与する活動
 - ・ 教育、学術に関する国際的な活動

2 重点助成事業の新設

万博記念基金事業の存在意義を高めるため、より大きな助成の効果が期待でき、万博記念基金助成事業の「顔」となるシンボル事業を重点助成事業と位置付けて、上限金額1,000万円まで助成できる制度を新設。「万博ならではの…」 「万博だからこそ…」といった独自性が発揮できる事業を採択して、他の助成事業との差別化を図ります。

3 助成率の変更、前払い制度の新設

助成事業者が事業を行いやすくなるよう、事業者の要望に応じて、助成率を助成対象事業費の1/2から3/4に引き上げ、自己負担をより少なくするとともに、今までは事業実施後に支払っていた助成金を、交付決定額の1/2まで前払いができるよう制度変更しました。

平成30年度日本万国博覧会記念基金助成事業申請・採択状況

(単位:件,万円)

| 申請・採択状況(前年度比較) | | 申 請 | | | | 採 択 | | | |
|----------------|---------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|
| | | 平成30年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 平成29年度 | |
| | | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 国際相互理解促進活動 | 国際文化交流、国際親善に寄与する活動 | 132 | 50,129 | 83 | 25,575 | 32 | 6,280 | 16 | 3,950 |
| | 教育、学術に関する国際的な活動 | 79 | 23,088 | 47 | 10,886 | 15 | 2,620 | 15 | 1,630 |
| | 自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動 | — | — | 5 | 1,755 | — | — | 2 | 390 |
| 文化的活動 | 日本の伝統文化の伝承及び振興活動 | — | — | 34 | 6,200 | — | — | 13 | 1,580 |
| | 芸術及び地域文化に関する活動 | — | — | 43 | 8,129 | — | — | 11 | 1,650 |
| 合 計 | | 211 | 73,217 | 212 | 52,545 | 47 | 8,900 | 57 | 9,200 |

平成30年度 日本万国博覧会記念基金 助成先の事業紹介

重点助成事業

- 事業名：1970年日本万国博覧会がUAEに及ぼした影響などの研究とその文書化
- 事業者：ブラウンブック／カルチュラル・エンジニアリング
- 交付決定額：700万円
- 実施期間：2018年4月1日(日)～2019年3月31日(日)
- 実施場所：ドバイ、東京都

事業概要 EXPO'70がUAEに及ぼした影響を解き明かすため、日本のパイオニア的なメタボリズム建築*家や都市計画家による影響と貢献に焦点を当て、両国の文化的アイデンティティの解明を行います。研究成果を3言語(アラビア語、英語、日本語)で発刊するとともに、UAEと日本で展覧会を開催し、万博理念が多様性国家UAEの建設に与えた影響を周知します。

*メタボリズム建築

1959年に黒川紀章や菊竹清訓ら日本の若手建築家・都市計画家が興した建築運動。社会や人口の変化に応じて新陳代謝(メタボリズム)する建築や都市のあり方を提唱した。

事業者コメント

この度は、Brownbook/ Cultural Engineeringのプロジェクトを採用いただきまして、誠にありがとうございます。

1970年の大阪万博は、ドバイでもよく話題になります。その理由の一つは、UAEが初めて万博に参加したこと。当時は建国前なので、アブダビという街がパピリオンを出していました。二つめは、万博を通して行ってきた国際的な交流の中で、多くの日本のメタボリズム建築家達がUAEにプロジェクトを提案しに来ていたという歴史があること。三つめは、2020年の万博がドバイで行われることです。

過去に日本とUAEの文化交流があったことはあまり知られていませんが、多くのエマラティ(UAEの国民を

こう呼びます)が今でも日本によく訪れ、大変尊敬の念を抱いているのは、2つの異なる文化のルーツに、何か分かり合えるものがあるからではないでしょうか。経済急成長の中で作り上げられた日本の新しい街と、その変化とともに文化を守ってきた日本人の過去は、現在似たような環境に置かれたエマラティが参考にした姿なのかもしれません。

このプロジェクトが、日本とUAEの相互理解と交流を深めるきっかけになればと願っています。史上初となるメタボリズム建築のUAEへの影響、また、文化交流の歴史を明らかにするこのリサーチを、万博記念基金の助成が得られる素晴らしい機会を大いに活用し、現実のものとしていきたいと思っています。



アブダビ館(大阪万博)



お祭り広場(大阪万博)

写真提供：大阪府

一般助成事業

- 事業名：**高麗大学校グローバル日本研究院〈日本学叢書〉刊行事業
—〈日本近代女性文学選集〉刊行—**
- 事業者：**高麗大学校グローバル日本研究院**
- 交付決定額：300万円
- 実施期間：2018年4月1日(日)～2019年3月31日(日)
- 実施場所：大韓民国 高麗大学校 グローバル日本研究院

事業概要

高麗大学校グローバル日本研究院が、韓国における日本文化の体系的な研究と日本文化に対する韓国人の正しい理解や、幅広い日韓文化交流を促進するために企画した「日本学叢書刊行事業」の一環。樋口一葉や宇野千代など代表的な近代日本女性作家を選定し、その作家たちの全100編に及ぶ作品計18巻を韓国語に翻訳・刊行します。



編集会議の様子



過去の成果物

写真提供：高麗大学校グローバル日本研究院

- 事業名：**大阪～ウズベキスタン青少年交流**
- 事業者：**特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか**
- 交付決定額：110万円
- 実施期間：2018年6月30日(土)～7月20日(金)、2019年3月21日(木)～3月30日(土)
- 実施場所：大阪府豊中市、ウズベキスタン フェルナガ県リシタン市

事業概要

国際間の相互理解を深め、より住みやすい社会を実現するために、直接出会う機会をつくることを目的に、ウズベキスタンと人的交流プログラムを実施します。

日本でのプログラムは、6月にウズベキスタンから5名の中・高生を招聘し、日本の学校へ通学させて生徒同士の交流・相互理解を深めます。週末には、日本人生徒とともに、大阪万博跡地会場を訪れ、EXPO開催の意図、現在まで果たしてきた意義を共有します。

また、7月中旬には「とよなか国際交流センター」で、日本～ウズベキスタン交流会を実施し、通学した学校の生徒だけでなく、一般の人達にも呼びかけて、より多くの人たちとの交流の機会を作ります。

ウズベキスタンでは、3月下旬に日本の若者・日本語教師をウズベキスタンへ招聘し、現地の人達とより深い友好関係を構築し、帰国後、成果を発表する機会を作り、両国間の相互理解を深めます。

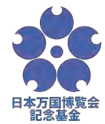


ウズベキスタンで日本語を学ぶ子ども達



日本での交流キャンプ

写真提供：特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか



平成30年度 日本万国博覧会記念基金助成事業一覧 (*印は国外事業)

| 事業者名 | 事業名 | 助成金額 (万円) |
|---|---|--------------|
| 国際文化交流、国際親善に寄与する活動(重点助成事業) | | |
| *ブラウブック/カルチュラル・エンジニアリング | 1970年日本万国博覧会がUAEに及ぼした影響などの研究とその文書化 | 700 |
| 国際文化交流、国際親善に寄与する活動(一般助成事業) | | |
| 特定非営利活動法人国際交流の会とよなか | 大阪〜ウズベキスタン青少年交流 | 110 |
| モザンビークのいのちをつなぐ会 | 第3回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー | 250 |
| 一般社団法人産業人文学研究所 | 伝統技法を用いた日本文化の理解醸成と人材開発事業 | 100 |
| *IYCO & KAKAFURAHHA | HIFA2018(2018年度ハラレ国際芸術祭)でのアフリカ音楽家との交流事業 | 150 |
| *富田人形共遊団 | 日本大使館主催「日本年」への出演 | 150 |
| 特定非営利活動法人リトル・クリエイターズ | チャイルド・エイド・アジア2018 | 210 |
| *Share the Wind | 日本の竹工芸技術を活かしたカンボジア王国リエンボン村における教育促進と雇用創出プロジェクト | 160 |
| 認定特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング | ICEP(インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム)2018 | 280 |
| *日本ミクロネシア文化交流会 | ミクロネシア連邦国際文化交流プログラム〜フラワー・アーツと伝統文化儀式交換〜 | 260 |
| *龍野アートプロジェクト | 龍野アートプロジェクト in クラフ | 150 |
| 特定非営利活動法人エデュケーション・ガーディアンシップグループ | 第23回海外高校生による日本語スピーチコンテスト及び青少年のための異文化交流プログラム | 230 |
| 一般社団法人京都ハラールネットワーク協会 | ハラール適合型和食の開発と「ハラール肉フェス in 京都」の開催 | 125 |
| *いしがき少年少女合唱団 | いしがき少年少女合唱団 スイス チュールリッヒ演奏旅行 | 230 |
| *公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 | 日本フィルハーモニー交響楽団韓国公演2018 | 150 |
| *公益財団法人鼓童文化財団 | 日仏友好芸術交流事業 鼓童×太陽劇団『Kodo Soleil プロジェクト』 | 220 |
| 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター | ポール・クローデル生誕150周年記念『繻子の靴』公演事業 | 160 |
| 小松サマースクール実行委員会 | 小松サマースクール2018 | 140 |
| Peace Art project in ひろしま実行委員会 | Peace Art Project in ひろしま『平和と美術と音楽と』 | 110 |
| *青い鳥児童合唱団 | ウイーン少年合唱団と共演コンサート in アウガルデン宮殿 一夢に希望を託してー | 210 |
| *特定非営利活動法人Little Bridge | ボスニア・ヘルツェゴビナと日本の子どもたちによる国際交流試合 | 240 |
| 特定非営利活動法人Peace Field Japan | “絆” KIZUNA プロジェクト | 170 |
| *さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座 | 札幌・ノボシビルスク 芸術文化活動を通じた国際交流事業 | 210 |
| 特定非営利活動法人ウォーター・エイド・ジャパン | 第11回国際水協会(IWA)世界会議・展示会における知的交流に向けたセミナー・ブース展示 | 100 |
| オペラ「ザ・ラストクイーン」実行委員会 | 創作オペラ「ザ・ラストクイーン 朝鮮王朝最後の皇太子妃」関西公演 | 220 |
| *フラー・クラフト・ミュージアム | 日本料理のアート、クラフト、デザイン：実用の品とその美 | 210 |
| *ウェリントン市議会 | ウェリントン・ジャパンフェスティバル2018 | 220 |
| *サンティアゴ・メトロポリタンパーク | サンティアゴ・メトロポリタンパークの日本庭園のメンテナンス向上 | 120 |
| *ニッポン・コネクション e.V. | 第18回日本映画祭「ニッポン・コネクション」 | 170 |
| *コーデン城日本庭園 | コーデン城日本庭園四季の文化交流公演展示 | 170 |
| *国立世界文化博物館/民族学博物館 | 2018年ストックホルム民族学博物館茶庭専門家派遣 | 75 |
| *ジャパン・ソサエティー | 八王子車人形 | 280 |
| 教育、学術に関する国際的な活動(一般助成事業) | | |
| 東京国際ヴィオラコンクール実行委員会 | ヴィオラスペース2018 vol.27 第4回東京国際ヴィオラコンクール | 210 |
| EPM2018組織委員会 | 9th International conference on Electromagnetic Processing of Materials | 100 |
| 揺らぎが生む秩序の物理学最前線国際会議組織委員会 | 揺らぎが生む秩序の物理学に関する最新課題を討論する国際会議 | 130 |
| 特定非営利活動法人バンゲア | ICTツールを用いた児童のための京都異文化サマースクール事業 | 270 |
| *民藝運動フィルムアーカイブ制作委員会 | 民藝運動フィルムアーカイブプロジェクト(2018) | 250 |
| *模擬国連全米大会 日本代表団派遣事業運営局 | 2019年模擬国連会議全米大会第35代日本代表団派遣事業 | 100 |
| NPO法人おおさかこども多文化センター | 外国につながる子どもを元気にするための実態調査 | 60 |
| 科学の祭典実行委員会野外実験班 | 第11回万博公園理科実験野外教室～科学を通じて国際性豊かな青少年の育成に向けて～ | 70 |
| 公益社団法人日本セラミックス協会 | 国際ガラス会議2018年年会 | 250 |
| 日本植物脂質科学研究会 | 第23回国際植物脂質シンポジウム開催事業 | 150 |
| *International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders | International Development Field Camp for Myanmar and Japan Youth Leaders 2018 | 200 |
| *特定非営利活動法人アースウォーカーズ | 福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ福島ドイツ高校生交流プロジェクト | 120 |
| QFS2018組織委員会 | 量子液体・固体に関する国際シンポジウム2018 | 260 |
| *高麗大学校グローバル日本研究院 | 高麗大学校グローバル日本研究院(日本学叢書)刊行事業ー<日本近代女性文学選集>刊行ー | 300 |
| *欧州日本専門家協会 | 国際会議「日本のSociety5.0構想における融和と分裂：欧州において開かれた社会のモデルとなるか?」 | 150 |

イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。ここではそのなかのいくつかをご報告します。

第15回の節目に「お初・徳兵衛」も参加 堂島薬師堂節分お水汲み祭り

2018年2月2日／堂島薬師堂、曾根崎新地一帯 主催：堂島薬師堂節分お水汲み祭り実行委員会

江戸時代から続く節分の「鬼追い」行事、北新地花街の風習「節分お化け(仮装)」、水都大阪にふさわしく水に感謝する「お水汲み祭り」が一つになった早春の恒例行事。奈良薬師寺の村上太胤管主による節分法要や薬師寺僧侶たちによる日本の歌謡の原点といわれる「声明(しょうみょう)」をはじめ、北新地芸妓衆による舞の奉納やホステスたちによるお化けが披露され、多くの見物人で賑わいました。2004年にはじまり第15回を迎えた今年は、当地が舞台の浄瑠璃「曾根崎心中」にちなみ、文楽人形遣いの桐竹勘十郎氏と吉田養二郎氏が違う「お初と徳兵衛」も参加しました。関西・大阪21世紀協会は、水都大阪の再生をめざし、この行事の立ち上げ時から参画してきました。



村上太胤管主からお香水を受ける黒田章裕関西経済同友会代表幹事(堂島アバンザ特設舞台)

新春のミナミに賑わい添える伝統行事 今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

2018年1月10日／道頓堀～今宮戎神社 主催：十日戎宝恵駕振興会

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕行列。江戸時代にはじまり、明治中頃からは花街の誘客や商売繁盛を祈願して行われ、当時は100挺もの駕が担がれ、賑わいました。現在は地元商店会や経済界などの協力により、その伝統が受け継がれています。今年は芸妓を代表して祐子さんを先頭に、歌舞伎俳優の中村幸太郎さんや文楽太夫の竹本織太夫さんらが駕に乗り、「ほえかご、ほえかご」の掛け声とともにミナミの商店街に繰り出し、今宮戎神社を参拝しました。関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。

ほえかご



ミナミの商店街に繰り出す宝恵駕行列

外国人写真家が見た日本の面影と日本人 交流サロン 21cafe

エバレット・ブラウン氏(国際フォトジャーナリスト、日本文化研究家)

2017年11月22日／中之島センタービル

日本各地を旅しながら日本の伝統文化を探求する写真家エバレット・ブラウン氏を招き、江戸時代末期から明治初期の撮影技法である「湿版光画」で撮影された同氏の作品を紹介。伝統祭事や職人たちのポートレートなどから、日本の面影や日本文化の将来について考察されました。その中で、「日本人はモノを単なる道具ではなく、そこに生命を感じ、特別な思いを込めている。女子高生が携帯電話にデコレーションを施すのはそうした国民性の表れ」とし、匠の精神は職人固有のものではなく、日本人の国民性だと指摘。現代の若者が庭師や染織などの伝統的な職人の仕事に携わり、その精神は脈々と受け継がれていると解説されました。



エバレット・ブラウン氏



湿版光画で撮影された写真
写真提供：エバレット・ブラウン氏

2017年度 関西元気文化圏賞贈呈式

2018年1月22日／リーガロイヤルホテル大阪

文化・芸術・スポーツなどの分野で活躍し、関西から日本を元気に明るくした人や団体などへ、感謝と一層の活躍を期待して2003年に創設された関西元気文化圏賞。その贈呈式が文化庁芸術祭賞贈呈式と合同で行われました。今年度は、陸上選手の桐生祥秀さんに大賞、囲碁棋士の井山裕太さん、京都国立博物館に特別賞が贈られ、文楽太夫の竹本織太夫(おりたゆう)さんらにニューパワー賞が贈られました。



受賞者と主催者

大阪市出身の織太夫さんは、8歳で豊竹咲太夫に入門し、

文楽の素晴らしさを広めるべく多方面で活躍する注目株。2018年1月に国立文楽劇場(大阪)で開催された人間国宝・八代目竹本綱太夫「五十回忌追善公演」において、江戸時代から続く大名跡の六代目織太夫(綱太夫の前名)を襲名し、次代の文楽を担う太夫の一人として、魅力ある舞台が期待されています。織太夫さんは賞贈呈式後の祝賀会で、「文楽界で40歳といえば、まだまだ若手。この素晴らしい芸能を世界にも届けたい」と笑顔で語りました。また、同賞は、国内外の数々のコンクールで受賞経験のある中学生チェリストの北村陽さん(西宮市出身:P21に記事)、「バブル」をテーマにしたキレのあるダンスで全国的に話題となった大阪府立登美丘高等学校ダンス部にも贈られました。



竹本織太夫さん
(合同祝賀会にて)



2020年に向け「大阪版文化プログラム」スタート

キックオフ公演

「大阪文化芸術フェスティバル2017」

(2017年10月2日・NHK大阪ホール)

主催：関西・大阪21世紀協会、大阪文化フェスティバル実行委員会
 制作：関西・大阪21世紀協会
 協力：NHK大阪放送局
 後援：関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、大阪観光局



関西・大阪のアーティストを内外に発信

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて全国各地で文化プログラム*が展開される中、昨年10月、その大阪版となる「大阪文化芸術フェスティバル2017」が開催された。大阪府や関西・大阪21世紀協会などで構成する大阪文化フェスティバル実行委員会の主催で、1か月間にわたり府内各所でさまざまな文化・芸術公演がジャンルを越えて交わる文化の祭典である。当協会は、そのキックオフ公演をNHK大阪放送局の協力を得て開催。関西・大阪の舞台芸術を代表するアーティストのパフォーマンスを内外に発信し、「大阪版文化プログラム・beyond2020」のスタートを飾った。今後も大阪のシンボル・大阪城や周辺のホールを活用し、世界のアーティストに発表の場を提供するなどの試みを続けていきたい。

*文化プログラム…IOCのオリンピック憲章で、開催都市に実施が義務づけられている文化的なプログラム。東京大会では、リオデジャネイロ大会終了後の2016年9月からの4年間(カルチュラル・オリンピアド)が実施時期にあたる。文化庁はこの期間に全国津々浦々で20万件のイベントの開催、5万人のアーティスト、5,000万人の参加を数値目標に掲げ、さらに2020年以降(beyond2020)も視野に入れた新たな文化振興モデルの構築を目指している。

関西から世界へ羽ばたく ～チェロ演奏とソプラノ歌唱～

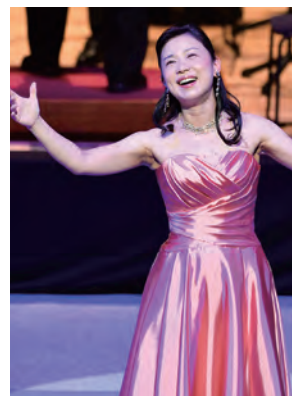
北村 陽さん(チェリスト)



13歳にして「第10回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」(2017年6月)チェロ部門で優勝した新進チェリストの北村陽さんが、カサド作曲『無伴奏チェロ組曲』を演奏しました。北村さんは、関西フィルハーモニー管弦楽団や東京交響楽団、大阪フィルハー

モニー交響楽団などの共演をはじめ、10歳で初リサイタルを開くなど、将来の活躍が大いに期待されています。演奏後、司会の杉浦圭子氏(NHKアナウンサー)のインタビューに答えて、「この曲は凛々しいところや淡々として悲しいところなど、色々な感情表現ができるので好き。チェリストとして自分しか出せない音を追求していきたい」と抱負を語りました。

石橋栄実さん(ソプラノ)



1998年ドイツ・ケムニッツ市立歌劇場公演(『ヘンゼルとグレーテル』のグレーテル役)をはじめ、国内外の劇場主催公演に数多く出演し高く評価されている石橋栄実さんが、ヨハン・シュトラウス2世作曲『春の声』を披露しました。近年では、新国立劇場『沈黙』(オハル役)、ロームシアター京都『フィデリオ』(マルツェリーネ役)など数々の舞台に出演し、ベートーヴェンの『第九』のソリストとしても活躍。大阪音楽大学・短期大学部 声楽准教授でもあり、演奏後、「声楽はこの世にひとつしかない楽器、声楽を学ぶ人はこれを大切に長く続けていくよう、頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

山本能楽堂、関西フィルハーモニー管弦楽団

水都大阪から地球環境の大切さを次世代に伝える新作能『水の輪』を、関西フィルハーモニー管弦楽団とのコラボレーションで上演。本公演は2016年11月に実施したところ大きな反響があり、今回はその再演となりました。

冒頭、岩谷祐之氏のソロヴァイオリンに合わせて、コンテンポラリーダンスの村上麻理絵さんが水鳥の妖精として『序踊』を披露。村上さんは、関西を拠点に国内外でダンサーや振付家として活躍しています。続く『水の輪』は、山本能楽堂の山本章弘さんによる水環境の浄化をテーマにした新作能で、世界各国の子どもたちも登壇。汚れてしまった川の水をきれいに蘇らせる「水

鳥』に扮して、一役果たしました。物語は『新世紀エヴァンゲリオン』（赤木リツコ役）の声優としても知られる山口由里子さんの温かな語りで進行し、観客は情感豊かな能に魅了されました。

また、関西フィルハーモニー管弦楽団はギオルギ・バブアゼさんの指揮で、グリーグ作曲『ホルベルク組曲』第2曲「サラバンド」や、スメタナ作曲『我が祖国』より「モルダウ」など6曲を演奏。カーテンコール後のフィナーレには出演者が全員登場し、ヨハン・シュトラウス1世の『ラデツキー行進曲』に合わせて観客と共に手拍子をして大いに盛り上がりました。



山本章弘さん



ギオルギ・バブアゼさん



山口由里子さん



関西フィルハーモニー管弦楽団



水鳥に扮した子どもたち



能の上演



フィナーレ



村上麻理絵さん

郷土に伝わる食の芸術・すし文化

～ 過去から現代へ、すしの歴史と遍歴を探る ～ (58分)

総合監修：佐々木洋三(関西・大阪21世紀協会 専務理事)
制作著作：関西広域連合 ケイ・オブティコム 関西・大阪21世紀協会



食の歴史検証ドキュメンタリー 関西各地の「郷土ずし」もふんだんに紹介

ユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的な広がりを見せる和食。とりわけ「すし」の人気は高く、今や「SUSHI」は世界共通語となっています。当番組では、日本の食文化の中心地・大阪とその周辺地域を訪ね、各地に息づく多彩な「すし文化」の歴史を紐解きながら、日本の食の魅力や奥深さに迫ります。

周囲を海に囲まれ、四季折々の旬の魚を食べる習慣が定着していた日本では、大陸から稲作がもたらされたことと併せて、すし文化が芽生えました。国立民族学博物館名誉教授の石毛直道氏は、その起源はインドシナ半島のメコン川中流域から中国西南部で初期の稲作が行なわれた時代に遡ると解説。雨期に川が氾濫し、水田に流れ込んだ大量の魚を塩と米飯に漬けて乳酸醗酵させる保存法が日本に伝わり、すしの原型である「なれずし」づくりが始まりました。



鮒ずし(滋賀県・魚沼)



日比野光敏氏

郷土ずし研究家の日比野光敏氏(清水すしミュージアム名誉館長)は、室町時代には庶民の間にも米食が浸透しており、醗酵時間を短縮してご飯も捨てずに食べられる「生なれ」が考え出されたと説明。さらに、酢を入れて醗酵を待たずに食べられる「早ずし」が登場し、鯖などの切り身を使った初期の早ずしである「姿ずし」から、「棒ずし」や「巻きずし」へと進化していきました。また、もう一つの流れとして、ご飯に具をのせて押す「箱ずし」が生まれ、そこから「ちらしずし」や「柿の葉ずし」が派生し、最終的に関東に伝わって「握りずし」が誕生し

ました。日比野氏は、「関東には握りずししかないのに対し、関西には多様なすしの形態が残っている。それは、関西が日本の中心地であったことにも起因する」と指摘しています。

当番組では、こうした関西人の知恵と工夫で育まれてきた「すし文化」の進化のストーリーや、手鞠ずし(京都市)、アナゴずし(大阪府堺市)、めはりずし(和歌山県)、柿の葉ずし(奈良県)など、関西各地の郷土すしの詳細なレポートも盛り込んで紹介しています。



手鞠ずし(京都祇園・豆寅)

鯖姿ずし(京都祇園・いづつ)



バッテラ(大阪市北区・寿司常)



アナゴずし(堺市・松井泉)



イカナゴのくぎ煮の巻きずし(兵庫県・神戸市)



柿の葉ずし(奈良県・平宗 吉野本店)

関西・大阪21世紀協会は、動画「関西食探訪」をウェブサイトに掲載しています。

YouTube

関西食探訪



で検索

または、関西・大阪21世紀協会ウェブサイト「関西の魅力」にアップ中です。
<http://www.osaka21.or.jp/movie/>

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員1口につき年会費10万円
- 個人会員1口につき年会費1万円

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部

公益財団法人

関西・大阪21世紀協会

ホームページ <http://www.osaka21.or.jp>

発行日/平成30年3月28日

編集・発行/公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階 TEL.(06)7507-2001 FAX.(06)7507-5945

発行人/佐々木洋三 編集協力/株式会社インサイト 印刷/東洋紙業株式会社